

令和2(2020)年度 病害虫発生予報 第6号

令和2(2020)年9月18日
栃木県農業環境指導センター

害虫の発生増加に注意しましょう！ いちごの病害虫発生に注意しましょう！

予想期間 9月下旬～10月下旬 予報の根拠で、(+)は増加要因、(-)は減少要因を表す。

1 いちご 炭疽病

- (1) 発生予想 発生量：**多い**
- (2) 根 拠 ・ 現在の発生はやや多い(平年比142%：ほ場率)。(+)
・ 向こう1か月の平均気温は高く、日照時間は平年並～少ない見込み。(+)
- (3) 対 策 ・ 発病株や感染が疑われる株は早急に取り除き、ほ場外で適切に処分する。
・ 水滴の飛散等によって伝染するので、できるだけ水の跳ね返りのないかん水を行う。
また、かん水はできるだけ晴天日の午前中に行い、曇雨天日や夕方のかん水を控える。
・ 症状が出てからの防除は困難なので、予防を主体にセイビアーフロアブル20等を散布する。
- (4) 備 考 ・ [植物防疫ニュース No. 11](#)、[イチゴ炭疽病薬剤感受性検定結果](#)を当センターHP(ホームページ)に掲載中。

2 いちご うどんこ病

- (1) 発生予想 発生量：**やや少ない**
- (2) 根 拠 ・ 現在の発生は少ない(平年比0%：ほ場率)。(－)
・ 向こう1か月の平均気温は高く、日照時間は平年並～少ない見込み。(±～+)
- (3) 対 策 ・ 軟弱徒長すると発生が多くなるので、かん水を適切に行う。
・ 予防を主体に、保温開始前からフルピカフロアブル等を散布する。
・ 発生が見られたらシグナム WDG等を散布する。

3 いちご ハダニ類

- (1) 発生予想 発生量：**やや少ない**
- (2) 根 拠 ・ 現在の発生量は少ない(平年比20%：ほ場率、平年比3%：株率)。(－)
・ 向こう1か月の平均気温は高く、日照時間は平年並～少ない見込み。(±～+)
- (3) 対 策 ・ ほ場をこまめに観察し、増殖する前に防除を行う。
・ 化学農薬に対する感受性低下が著しいため、必ずローテーション散布を行うとともに、抵抗性が発達しにくい気門封鎖剤や天敵製剤を活用する。
・ 天敵導入時にハダニ類が多いと失敗しやすいので、天敵導入前に気門封鎖剤や天敵に影響の小さい薬剤を散布し、ハダニ類の増殖を抑制しておく。
- (4) 備 考 ・ [ナミハダニ薬剤感受性検定結果](#)を当センターHPに掲載中。

4 きゅうり コナジラミ類

- (1) 発生予想 発生量：**やや多い**
- (2) 根 拠 ・ 現在の発生量はやや多い(平年比166%：ほ場率、平年比352%：株率)。(+)
・ 向こう1か月の平均気温は高く、日照時間は平年並～少ない見込み。(±～+)
- (3) 対 策 ・ 密度が増加すると防除が困難になるので、ほ場内に黄色粘着板を設置する等、早期発見・早期防除を行う。
・ 薬剤感受性の低下を避けるため、異なる系統の薬剤をローテーション散布する。
・ 施設内外の除草を徹底し、ハウスの開口部に0.4mm目合以下のネットを張る。また、観賞植物等をハウス内に持ち込まないなど、耕種的防除を徹底する。
・ 栽培終了後は施設を密閉し高温にしてコナジラミ類を死滅させ、施設外への本虫の拡散を防ぐ。

5 ねぎ 黒斑病・葉枯病

- (1) 発生予想 発生量：**やや多い**
- (2) 根 拠 ・ 現在の発生量は平年並(平年比98%：ほ場率、平年比26%：株率)。(±)
・ 向こう1か月の平均気温は高く、降水量は平年並～多く、日照時間は少ない～平年並の見込み。(±～+)

- (3) 対策
 - ・発生初期の防除に重点を置く。多湿条件で発生しやすいため、秋雨期や曇雨天が続く場合は発生に注意して防除を行う。
 - ・肥料不足や過多は病害が発生しやすいため、適正な肥培管理を実施する。
 - ・被害葉や被害株は、ほ場外に持ち出し処分する。

6 ネギ ハモグリバエ類

- (1) 発生予想 発生量：**多い**
- (2) 根 拠
 - ・現在の発生量が多い（平年比 406%：ほ場率、平年比 187%：株率）。（+）
 - ・向こう 1 か月の平均気温は高く、降水量は平年並～多い見込み。（±～+）
- (3) 対策
 - ・ほ場をよく観察し、ネギハモグリバエの発生が認められた場合は、速やかに防除を行う。薬剤感受性の低下を避けるため、異なる系統の薬剤をローテーションで使用する。
 - ・定植時や土寄せ時には、粒剤やかん注剤を処理する。
 - ・被害葉及び収穫残さは本種の発生源となるので、残さは、ほ場内に放置せず、一か所にまとめて積み上げ、ビニール等で覆い、裾部分を土で埋め密閉する等適切に処分する。
- (4) 備考
 - ・[植物防疫ニュース No.13](#) を当センターHP に掲載中。

7 野菜類（いちご・なす・キャベツ・レタス等）・花き類 ハスモンヨトウ

- (1) 発生予想 発生量：**やや多い**
- (2) 根 拠
 - ・9月第1半旬までのフェロモントラップによる誘殺数はやや多い。（+）
 - ・向こう 1 か月の平均気温は高く、降水量は平年並～多い見込み。（±～+）
- (3) 対策
 - ・定期的にはほ場を観察して早期発見に努め、卵塊や分散前の幼虫を寄生葉とともに摘み取り処分する。
 - ・幼虫の齢期が進むと被害が大きくなる上に、薬剤が効きにくくなるので、発生初期の若齢幼虫のうちに薬剤防除を行う。

8 その他の病害虫

作物名	病害虫名	現況	発生予想	作物名	病害虫名	現況	発生予想
きゅうり	べと病	平年並	やや多	キャベツ・レタス	タバコガ類	—	平年並
	うどんこ病	平年並	やや多		りんご	褐斑病	多
なす	ハダニ類	やや多	やや多	きく	アブラムシ類	やや少	やや少
ねぎ	さび病	多	多		ハダニ類	平年並	平年並
	アザミウマ類	平年並	平年並				

秋の病害虫防除対策

○イネ縞葉枯病

- ・縞葉枯病が発生したほ場の再生稲（ひこばえ）は、媒介虫のヒメトビウンカの増殖源と縞葉枯ウイルスの獲得源になります。現在、ヒメトビウンカ成虫が平年より多く発生しているため、早急に丁寧な耕起を行いましょう。

○麦類種子伝染性病害

- ・近年、オオムギ斑葉病やムギ類黒節病等の種子伝染性病害が増加傾向にあります。種子消毒を行うとともに適期には種しましょう。

○いちごのアザミウマ類

- ・頂花房の開花が10月上旬以前から見られる施設では、秋期からアザミウマ類が発生しやすく、翌年の発生も早まる傾向があるため、適切に防除しましょう。

○トマト黄化葉巻病（TYLCV）

- ・近年、タバココナジラミが媒介するトマト黄化葉巻病（TYLCV）が増加傾向にあります。施設開口部は、0.4mm 目合以下のネットを張って本虫の進入を防止するとともに、発生初期から防除しましょう。また、発病株は見つけ次第抜き取り、ビニール袋で密閉し、枯死させましょう。抵抗性品種も本病に感染すると、伝染源となるため、感受性品種と同様の適正な防除対策が必要です。

○ナシ黒星病（秋季防除）

- ・病原菌は芽や落葉で越冬し、翌年の発生源となるため、収穫終了後は徒長枝の先端までまんべんなく葉液がかかるよう丁寧に薬剤散布を行い、園内外の落葉を集めて適切に処分しましょう。防除の際は周辺へ飛散（ドリフト）しないよう十分注意しましょう。

○農薬は適正に管理し、正しく使いましょう！

○同一薬剤の連用を避け、異なる系統の薬剤をローテーション散布しましょう。

1か月気象予報（予報期間9月19日から10月18日 9月17日気象庁発表）

天気は数日の周期で変わりますが、平年に比べ曇りや雨の日が多い見込みです。向こう1か月の平均気温は、高い確率60%です。降水量は、平年並または多い確率ともに40%です。日照時間は、平年並または少ない確率ともに40%です。

週別の気温は、1週目は、平年並または高い確率ともに40%です。2週目は、高い確率60%です。3～4週目は、高い確率50%です。

向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率（%）

項目	低い（少ない）	平年並	高い（多い）
気温	10%	30%	60%
降水量	20%	40%	40%
日照時間	40%	40%	20%

詳しくは農業環境指導センター（TEL 028-626-3086）までお問合せください。

病害虫情報発表のお知らせはツイッター「栃木県農政部 (@tochigi_nousei)」、農業環境指導センターホームページ (<http://www.jppn.ne.jp/tochigi/index.html>) でもご覧になれます。